



第32回 狭山台地区体育祭



第32回狭山台地区体育祭は、狭山元気プラザグラウンドにて10月2日(日)の10:00~14:00に開催されました。

狭山市市議会議員の皆さん他多数の出席を頂き岡村実行委員長の開会挨拶後、参加者全員がラジオ体操を行い、足腰のストレッチを行いました▼昨年度より体育祭の在り方が、気軽に楽しめるゲーム感覚のレクリエーション大会になりました▼高齢者から小さな子どもまでが存分に楽しめる競技内容としたところ、参加者が多くなり本年度は参加者&スタッフ合計でおよそ1,500名の参加者となりました。



競技前のラジオ体操による参加者全員での準備体操



『球投げ』に挑戦している楽しそうな親子

11時から『とん汁』の無料配布が始まりました。また各自治会では昼食弁当の参加者配布もあり、競技の合間に日陰などを利用して昼食を楽しんでおりました▼そして福島復興支援イベントの『福島・いわきの物産販売』を所沢西高校OBといわき海星高校の協力で実施しました。小名浜直送の『サンマ』1,000匹や、小名浜郷土料理サンマの『ポーポー焼き』、めひかりの干物、かまぼこ、涼豊梨。トマトを販売し人気を博しました▼体育祭に参加し、ゲームで得点したスコアカードを狭山元気プラザのエントランスで交換し、各自がA賞~C賞の賞品を沢山頂き、満足して帰路につく楽しそうな笑顔が印象的でした。 村上記者



賞品受取会場『獲得点によって貰える賞品がちがいます』

ゲームは全て個人戦で、点数の良い3ゲームの合計点数で賞品が決まります▼また小学生以下参加の『迷路』は体育館で行いました。記者も『迷路』に挑戦しましたが、段ボールで作った『迷路』に迷ってしまい脱出に大変苦戦しました▼ゲームの紹介です。①ペタンク投げ(金属の球を転がして目標の場所に入れる)②ハネムーン(バトミントンの羽根を輪の中に入れる)③PK(サッカーボールを蹴って目標に入れる)④目隠しで5m(目隠しで5m歩き位置精度を競う)⑤目方でドーン(目標重さをお手玉集めで競う)⑥ストラックアウト(ボールを投げて目標に当てる)⑦輪投げ(輪を投げて目標杭に入れる)⑧球投げ(ゴムボールをバケツに入れる)⑨迷路(段ボールで作った大きな迷路に入り、脱出に挑戦する)



第9回食のフェスティバル おしんぼ祭り



雨天決行で準備開始

10月9日当日の朝、あいにくの雨ではあったが予定通りおしんぼ祭りは開催されることになった。早朝、テントを設置し販売の準備が始められた。元気プラザ2階の調理室は店に並べる食品の調理で大わらわ▼店舗は16店、テントの中では売り場に商品を並べたり値段を表示したりと準備しているうちに雨も少しずつ収まり、祭り開始の時刻にはほとんど雨があがってきた▼定刻に祭りはスタート。例年より人の出は少ないながらも開始のセレモニーが終るころには、店先に行列のできる場所も見られるようになった。お昼近くには多くの人々が来場し会場も大賑わいになった▼狭山コロッケは店に並べられるとあっという間に完売、焼きそばも人気、とん汁も早々に売り切れていた。例年最後まで売れ残っているいきなり団子が今年は早いうちに完売となった。新顔の手羽肉の香味付けの揚げ物は子どもに人気の商品であった。昨年まで出ていた山形の芋煮汁、長野の笹寿司などがなかったのは寂しかったが、チヂミや焼き鳥、赤飯などは終了間近に来た人にも楽しんでもらえて幸いであった。



おいしい手羽肉準備中♪



中庭も家族で一杯

うきうきおしんぼ祭り おいしいね!

玄関ホールや中庭のテーブルにもびっしり食事をする人々でいっぱいになってきたところで参加者に聞いてみた。▼幼稚園児、小学生、ご夫婦の4人家族『去年も来て2回目の参加です。焼き鳥と焼きそばを食べています。マドレーヌも鶏手羽もポップコーンも買えました。おいしい!』▼入曾から初めて来たという女性『雨で中止かなと思ったけど来てよかった。一人でも来れるのもいいですね。これから他の物も買っていきます。コロッケと豚汁をおいしく食べました。毎年やっているんですか?いい催しですね』▼今日は保育園の運動会が体育館であったので幼児連れの家族も多かった。小学生数人にも聞いたところ、新狭山小、堀兼小、山王小、狭山台小の子どもでした。子どもには焼き鳥、手羽肉が好評でした。中庭ではテーブル席に座れず岩石園の周りの淵にもびっしり座っておいしそうに焼き鳥やとん汁に舌つづみをうっていた。

ミニSLも登場

お昼近くに高校生の手によってミニSLが設置されましたが、もう大半の方が帰り始めている時だったため乗車できたのはわずかな人数になってしまったのは残念であった。それでも運よく乗れた子たちは大喜びでした。終了後の片付けはテントが乾いてからとのことで全部の片付けは翌日に回し3時には会場はまた静けさを取り戻した。

課題が・・・

出店できる方が高齢になり、これまで人気だった売り物が少しずつ減っている。住民の出身地の地方色を出したいという初期の思いが薄れてきて各地の郷土料理が少なくなった。高齢化には抗しがたく流れにまかせていくほかないのが現状で祭り実行委員の悩みでもある。 牧野記者



狭山工業高校の生徒による楽しいSL

